

設問

次の文章を読み、この文章において、まず、筆者が主張していることを二〇〇字程度に要約しなさい。次に、筆者の意見を踏まえてこの問題についてのあなたの考えを論述しなさい。全体の字数は八〇〇字以内とします。

(社説) チャットGPT 利用ルールの議論急げ

米新興企業「オープンAI」が開発した対話型AI(人工知能)「ChatGPT(チャットGPT)」が注目を集めている。様々な活用への期待が高まる一方、教育に悪影響は出ないか、職を失う可能性はないか、危機感を募らせる人々もいる。

人間の指示に応じて、ネット上の膨大なデータから自然な文章を作る「生成AI」の一つだ。昨年十一月の公開以降、世界中で爆発的に利用が広がった。

すでに、書類の下書きを作らせたり、「パートナー」として対話して考えを深めたりするのに用いられている。西村康稔経産相は、国会答弁の作成に使えないか検討するという。

しかし、教育や研究の現場からは「AIに書かせた作文や論文を提出されても見抜けない」「表現力や創造力が育たなくなる」などと心配の声が上がる。文部科学省は、学校での活用方法や注点をまとめた指針の策定を進めている。

東京大学はチャットGPTを「話し上手な『知ったかぶりの人物』」にたとえ、学生にはリスクに注意しつつ主体的に判断して使うよう求めた。

現段階では妥当な考え方だろう。ただ、こうした存在が生成する文章が世にあふれるようになったとき、言葉と事実の精査によって成り立ってきた言論空間の存立基盤が揺るがないか。注意が必要だ。AIが生成するのは、あくまで「もっともらしい」ものにすぎない。「知ったかぶり」には虚偽や偏見が紛れ込む危険がつきまとう。

併せて、かねてAIをめぐる指摘されてきた、個人情報や企業秘密の漏洩(ろうえい)や著作権侵害につながる可能性なども問題になっている。巨大IT企業がデータと権限の集中をさらに進める恐れもあり、欧州では利用を制限する動きが広がる。

生成AIの開発競争は激化する一方だ。今後どう進化するのか。日本のAI研究の第一人者でも予想がつかないという。

G7議長国として政府は国際的なルール作りへと動く。各国の思惑も絡むが、実効性のある議論を急ぐべきだ。日本はAI分野で後れをとり、巻き返しを図るが、自国の利益だけを考えるべきではない。社会と共存しながら技術が健全に発展するよう、企業や業界団体にも自主的なルール整備を求めたい。

ゲノム編集技術の臨床応用をめぐる研究者らが一五年、国際会議を開き、守るべき規範を示す声明を採択したような動きにも期待したい。限界は指摘されるが、その後の世界各国のルール作りに一定の影響を与えた。社会の懸念を減らして利用のメリットを享受する道を考える際、参考になるだろう。